

人々の思いが刻まれた銘

「～中」

石碑には、寄附者として個人名のほか、「氏子中」「講中」など、みんなでお金を出し合って建立した様子が伺える。

氏子中・信者中・村中・邑中・郷中・藩中・講中・行者講中・女講中(女中講)・若連中・子供中

また、起案した人=発起人、実行委員=世話人等の表記も多い。

⑩荒神社手水鉢(氏子中)



⑪蘭崎神社欄干(子供中)



⑫地神(若蓮中)



⑬題目石燈籠(講中)



⑭題目石燈籠(講中)



⑮手水鉢銘(信者中)



「～建之」

例「安政六己未年九月吉日建之」

「建之」は「これをたつ」と読み、その石碑がいつ建てられたかを刻んでいるものが多い。他に「建立」「立之」「造立之」「爲」など。

また建年号の前に「維時(これとき)」「旨」を付け、「この時この時間に～」と強調しているものがある。(⑯の三百年記念碑)

「～吉日」

建立の日を記す表現は「吉日」が最も多く、他に「吉祥日」「吉祥」「吉辰」「吉祥旦=目出たき暁とか、朝の異称」「社日(春分と秋分に最も近い戌(つちのえ)の日で、土地の神を祭る祝日)」「辰日(たつのひ=十二支が辰にあたる縁日で、ご利益を授かる日とされる)」

ほかに「上諏=(じょうかん、月の初めの10日間)」「仲秋」など時季の表現もある。

「在米氏子」

渡米した人々の寄附による石碑も垣間に見られる。故郷への思いがこめられている。

⑯渡米者寄附芳名碑(中正院)



⑰在米氏子寄附碑(天神社)



庭瀬かいわい案内人によるガイドツアー



51 荒神様

令和7年2月14日



5 正法寺

令和7年6月17日

参考文献

- 『きびのさと』 吉備観光協会(宇垣武治) 昭和33年～43年発行
『吉備町誌』 吉備町史編纂委員会 昭和48年7月1日発行
『地場大師八十八ヶ所調査報告書』岡山市大内田周辺民俗文化財調査委員会 昭和56年1月31日発行
『地場大師八十八ヶ所調査報告書』坪井慈朗 令和5年12月発行
『わたくしたちの福田村』吉崎治夫 昭和58年1月25日発行
『岡山県南部地域の道通信仰について』 平田満里子
『日本国語大辞典』 小学館
『大漢和辞典』 諸橋轍次

編集委員
(五十音順)

上森 剛

香田 清治

高橋 浩郎(故人)

坪井 慈朗

森安 哲彦

吉備・陵南にある石碑を訪ねて

路傍の文化財

平成23年(2011)年4月	初版発行
平成23年(2011)年8月	第二版発行
平成23年(2011)年10月	第三版発行
平成23年(2011)年12月	第四版発行
平成26年(2014)年3月	第五版発行
平成27年(2015)10月	第六版発行
令和4年(2022)8月	第七版ダイジェスト版発行
令和4年(2022)10月	第八版発行
令和6年(2024)6月	第九版発行
令和7年(2025)5月吉祥日	第十版ダイジェスト版発行
令和7年(2025)6月吉祥日	第十版発行

発行人 庭瀬かいわい案内人の会

編集 庭瀬かいわい案内人の会

発行所 坪井技研(岡山市北区撫川1274-1)

ISBN978-4-9908867-0-7

C0001 Y5000E

本書の一部または全部について、庭瀬かいわい案内人から文書による許諾を得ずに
いかなる方法においても、無断で複写・複製することを禁じます。